本格的な秋の訪れに外あそびを楽しんでいる子どもたち。昼夜の気温差が大きい季節でもあるので、健康面には十分気を付けていきたいと思います。これからの季節、お散歩などでどんぐりや落ち葉に触れることも増えてきます。色や音、手触りや匂いなどでも秋を感じていきたいですね。

★幼児期前半の自我の発達

２歳を過ぎてくると、目の前のことを「する」だけでなく、思い浮かんだイメージをもとに行動するのですが、イメージの世界はまだまだ不安定です。エピソードを思い浮かべて遊んでいても、次のエピソードを思い浮かべるのにはてがかりが必要になります。そのため、大人や仲間が、エピソードに共感してくれていると楽しいのですが、手がかりがもてないと不安になってきます。指をしゃぶったり、ボーっとする姿も出てしまいます。だから仲間がいて、ともに楽しく遊んでいる場面の方がイメージを思い起こしやすく、仲間同士で動きのマネっこが伝染していきます。ビニールブロックに一列に並んで乗り、「大型バスに乗ってます」と遠足に行くシーンが展開されるのも、お互いのイメージが伝染し溶け込むからです。

この時期はオウム返しもよく見られ、「アキ、ごめんな」とおもちゃを投げた仲間のことばをそのまま取り入れて、ブロックを投げる時に「アキ、ごめんな」と言うなどの姿が見られます。オウム返しは自閉症スペクトラム児だけのものではありません。人形相手に「どうぞ」「ありがとう」と一人二役で遊ぶのも、他者がしていたことを思い浮かべ行動を生み出していくためです。仲間に対して「カシて」「イイよ」と譲る姿も出てきて、泣いている仲間をなぐさめるやさしさも見え始めます。仲間と一体感を感じるようになってきているのですね。このように、自分から見える世界に素直に溶け込む「相互模倣」がさかんな時期です。保育者が楽しく動き相互模倣を作り出すと、楽しく参加する子どもが増え、雰囲気が盛り上がっていきます。イメージを思い起こしやすい「エビカニたいそう」のハサミのような手がかりグッズ があると、子どもはより盛り上がります。

一方、大人と子どもが 1 対 1 で対応する際には、1 歳児とは違ったややこしさも出てきます。自分のイメージを行動に移したい 2 歳児は、大人が勝手に自分のイメージ

に溶け込んでくることを拒否するようになります。
　イメージがまだ不安定であるが故に、大人に侵食され溶け込まれそうだと感じると、自分のイメージを強く打ち出さざるを得なくなるのです。大人から独立した自分を作るほどはイメージがしっかりとしていないけれど、「自分を確立したい」とこころの奥で願っているから、自分の立ち位置をどうしても保持したいと踏ん張るのです。いわば「反抗のための反抗」です。

『こどものかわいさに出あう　～乳幼児期の発達基礎講座～』
　近藤直子著　　クリエイツかもがわ　出版

次回のひよこ教室は…
　ひよこ教室①②…　　１２月　５日（土）
　　→　**せいさく**　をします
　◎持って来るもの：水筒・必要に応じて着替え
　　※保護者の方も動きやすい服装でお願いします

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

参加される皆様へ』　～ご協力をお願いします～
・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
・参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として 100 円いただきます。その都度連絡します
・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください